

長野県植物研究会 2023 年大会及び第 225 ～ 227 回例会報告

藤田 淳一*・千葉 悟志**

1. 大会例会概要

(1) 日程

長野県植物研究会 2023 年大会、第 225 ～ 227 回例会及び、同定会を下記の日程で開催しました。

(2) 日時・場所

- ・2023 年大会：2023 年 6 月 10 日（土）・信州大学教育学部（長野市）
- ・第 225 回例会：2023 年 6 月 11 日（日）・小菅神社、北竜湖周辺（飯山市）
- ・第 226 回例会：2023 年 9 月 9 日（土）・中綱湖、中部農具川周辺（大町市）
- ・第 227 回例会：2023 年 9 月 10 日（日）・木崎湖海ノ口周辺（大町市）
- ・勉強会：2024 年 2 月 17 日（土）：長野県環境保全研究所 2024 年 2 月 18 日（日）：市立大町山岳博物館

(3) 概要

1) 2023 年大会

新型コロナウイルスの感染法上の分類が第 5 類に引き下げられ、3 年ぶりに対面での総会を開催し 25 名の方々が参加されました。この度の会場は信州大学教育学部（長野市）とさせていただき、井田秀行さんに事務手続きや会場準備等に当たっていただきました。

講演会では、井田さんから「コロナ禍における植物に関連した教育活動」と題して発表していただきました。

小学校の教諭を目指す教育学部の学生が受講する植物に関する講義は、環境教育（1 年次 1 単位）と理科基礎（2 ～ 3 年次 2 単位）の 2 つのみで、学生らはいずれ教諭となり、理科も含めて教える立場になるとのこと。また、ここ 2 年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、対面授業が制約された期間もあり、講義には Zoom を導入し、試行錯誤しながらあたられたこと。この実践に関して、学



大会の様子

生が『初等教員養成科目における生態学教育のあり方の検討：教員養成系大学生が考える「身近な自然」の活用場面からの考察』と題した卒論で、講義を通じ学生たちは自らが自然に対する経験が全般に低いこと、野外活動は楽しいと感じるとともに知識の重要性と必要性を認識したこと、身近な自然をテーマとした制作課題を与えたところ、個人の意外な才能を見出す機会にもなったことなどが報告されました。

井田さんの講演では、大学の講義では「身近な自然」があらゆる場面で使えるという「気づき」を与える工夫が必要とのことでした。

長野県の小学 3 年生の理科には「いきもののくらし」という単元がありますが、「気づき」を経験した学生が今度は教える立場の教諭となり、身近な自然を使って、児童にどのような「気づき」を提供できるのか、信州理科教育の発展にさらなる期待が高まるお話でした。

藤田からは、「令和元年台風 19 号後の千曲川氾濫原における植物相の回復状況」と題して、井浦和子さん、中村千賀さん、松田貴子さん、千葉の連名で発表しました。

発表では、2 回の氾濫で再生と更地が繰り返された氾濫原において、どのように植物相が変化するかを植物採集を通して記録したところ、県内新産種や認識されていない種などの発見にも至りました。

調査は、個人が実施した調査場所・ルート、採集した種の情報を共有したり、リモートによる植物の同定をしたりして、データの精度を効率的に高めて

* 藤田淳一 長野県松本市

Mail:aegithalos-caudatus@celery.ocn.ne.jp

** 市立大町山岳博物館

〒 398-0002 長野県大町市大町 8056-1

いったこと。そういったなかで、千曲川水系では初めてと思われるヤガミスゲ、またアオテンツキやギシギシの生育やアイノコギシギシ（ナガバ×ギシギシ）、ナガミヒナゲシ、シラホシムグラなどの生育を確認に至ったことを紹介しました。また、ミミナグサだと認識したものがオオミミナグサであったり、ヤエムグラと認識したものがシラホシムグラであったりと、これらは、思い込みがもたらしたものですが、「あれ？」と違和感を覚えたときに、標本を残すことで誤認に気づき、標本を残す（保管）重要性、またそれらがいつでもだれでも見直しできるように公共機関に収められることの必要性を深く理解できたお話でした。

上野勝典さん、由貴枝さんからは「長野県のユキノシタ科ネコノメソウ属とその雑種」と題して発表していただきました。

長野県内のユキノシタ属は変種を含む 17 種と 1 品種（キンシベボタンネコノメ）が認められ、同所的に 5～6 種の生育が見られることから、長野県は魅力的な環境であるとのことでした。発表に際しては、植物の構造について解説され、長野県植物誌を参考に、検索表を示していただきました。その上で、コガネネコノメソウとオオコガネネコノメソウは連続的で区別されないことが多く、長野県では分けていないこと。イワボタンの県内分布の真偽は確かめられていないこと。ニッコウネコノメは地域により花色が異なったり、萼片も平開せず直立したりと違いがあること。交雑種は地域フロラを特徴づける要素のひとつで、イワボタン列（ニッコウネコノメ×イワネコノメソウ、ニッコウネコノメ×ボタンネコノメソウ、キバナハナネコノメ×トウノウネコノメなど）に見られるほか、別の種においても未発見の隠蔽種の発見、また、近年進められている調査により新種の発見や系統関係が明らかになっていくことが期待されるのお話でした。

中村千賀さんからは「長野県植物誌改訂に向けた人物史の連載」と題して、発表していただきました。中村さんは、人物史をまとめるにあたり、「著書・論文をできるだけ現物で確認する」、「業績のリストづくりにならないようにする」、「著書の前書きなどから『思い』をくみ取る」、「できればその人物と交流のあるかたから」、「『思い出』などの文章をいただく」、「思い入れを出し過ぎないようにする」、「調べてみての感想を一言入れる」を個人的な心得としているそうです。

この度は、中村さんが大塚孝一さん、井田秀行さ

ん、荒井勝利さんとともに、これまでに長野県植物誌第 52 号～55 号で紹介した 11 名（石澤進・豊国秀夫・丸山利雄・高橋勸・井上健・佐藤邦雄・古瀬義・浜栄助・浅野一男・水島正美・金井弘夫、敬称略）について、それぞれの出身地、主たる研究や功績などをご紹介いただきました。

当会にはすでに日本の植物界へ多大なるご功績を残されている方が多数お見受けされますことから、いずれ人物史として紹介されることでしょうし、まだまだご活躍をご期待申しあげたいと、聴講された皆さまは思われたのではないのでしょうか。

野口健さんからは「長野県植物誌改訂に向けた上田地区の調査状況」題して発表していただきました。

上田地区は、平地のみならず、国有林や国立公園と水平また垂直的にも広い範囲で活動されていて、昨年までに 137 科 1,362 種、8,736 点を採集されたそうです。うち、外来種は 209 種（15.3%）が認められ、誤同定は 0.6%（14 点/2,258 点）と会員の同定にかかる能力の向上が年々、高まっていること。調査を通じて、希少種の発見と同時に外来種が高標高地においても発見されることもわかってきたそうで、セリバヒエンソウやウチワゼニゴケなどの発見に至ったことなどが報告されました。

上田地区は、調査区 10 地区に分割したなかで、最も標本数が多く、活動報告は、ほかの地区でもとても参考になるお話だったと思います。

尾関雅章さんからは、「長野県植物誌改訂に向けた分布情報の集積状況」と題して発表していただきました。

尾関さんが勤務する長野県環境保全飯綱庁舎の植物標本点数は 20 万点を超え、1997 年は一元的な管理ができたが、県内のそれぞれの標本庫が独自のデータベースであったり、世界測地系への移行により約 12%の面積が隣接するメッシュへ移行したりして、さらに過去のデータはメッシュ中心にアドレスマッチングを用いるなどしたため、作業が難航したことが報告されました。

このため、採集にあたってはポイント座標を推奨し、行政で分布情報を管理していくことが望ましいとの考えを示され、標本の収集に関しては、実施場所の標本チェックリスト（場所と時間、年代）を例会などで配布することにより、未記録の発見、過剰採集の防止、調査者のモチベーションアップにつながるのではないかとのお話でした。

最後は、会長の佐藤利幸さんが「コロナ時里山仙人のサンザシ周辺のシダ植物分布精査」と題して、

発表されました。

クロミサンザシが生育する地点を調査したところ、自宅周辺（20 地点）で 32 種、札幌（8 地点）で 14 種、菅平（20 地点）で 36 種が出現し、類似性は 0.48 で、札幌と菅平では類似性が低いことが紹介されました。また、各地点で出現した全 54 種のうち、オシダ、クサソテツ、コウヤワラビ、ジュウモンジシダ、スギナ、ヒメシダ、ヤマイヌワラビ、ワラビの 8 種が共通していたことが紹介されました。

シダを指標に環境をみるという面白さ、またも佐藤ワールドに誘われる興味深いお話でした。

■参加者：荒井沙由里、井浦和子、井田秀行、上野勝典、上野由貴枝、大塚孝一、尾関雅章、川上美保子、神林清文、坂口竣弥、佐藤利幸、篠原光義、所沢あさ子、竹重聡、千葉悟志、坪井勇人、中西由美子、中村千賀、野口健、橋渡勝也、蛭間啓、藤田淳一、松田貴子、山下航平、米澤安子（全 25 名）

2) 第 225 回例会

会場は飯山市の小菅神社・北竜湖とその周辺といたしました。昨秋の例会では初めてのインターネットによる受付だったためでしょうか、7 名と少人数となりましたが、この度は 16 名の方々にご参加いただきました。

この度は、長野県植物誌改訂に向けた調査も兼ねていましたので、事前に尾関雅章さんが作成した同地域のこれまでの採集リストを配布し、リストにない植物の採集も目的に含め行いました。

季節は初夏ではありましたが、植物の観察で、例年よりも成長の進み具合が早く感じられました。



第 225 回例会の様子

■参加者：井浦和子、井田秀行、大塚孝一、笠原光枝、坂口竣弥、佐藤利幸、篠原光義、千葉悟志、中西由美子、長谷川慎平、藤田淳一、松田貴子、柳さおり、柳千晴、山浦攻、山下航平（全 16 名）

3) 第 226・227 回例会

第 226 回例会の会場は大町市の中綱湖周辺といたしました。1 日目は中綱湖とそこから流れ出る農具川の川沿いに歩を進めました。中綱湖はヌマカイメンのほか、県内初記録とされる浮遊動物のマミズクラゲで知られ、湖面にはヒツジグサやサイコクヒメコウホネ、キショウブなどが多く見られます。

ちなみに、このサイコクヒメコウホネは、最近になって藤田の採集した標本をもとに志賀隆さん（新潟大学教育研究院人文社会科学系教育学系列准教授）が明らかにしたものです。

227 回例会の会場は、木崎湖北側の海ノ口地区といたしました。当地はほぼ農地が占める場所ですが、近年は休耕田が目立ち、そのような場所ではヤチアザミやミズマツバ、ムツアカバナ、スズメウリなどが見られる一方、外来系統と考えられるキンエノコロやキタメヒシバも観察されました。

2 日目例会の終わりに、春と秋の例会で採集した標本をオフシーズンにそれぞれが持ち寄り、会員相互に意見を出し合い、知識を高めるという「勉強会」を新しい試みとして企画幹事より提案させて頂き、開催する方向で調整することとなりました。

■参加者：伊藤健、垣内雄治、垣内美佐子、千葉悟志、井浦和子、加藤範夫、吉沢敏江、佐々木あや子、坂口竣弥、三浦奈香子、三樹和博、小林将和、小林智子、松田貴子、城戸敦子、浅川五子、中西由美子、



第 226・227 回例会の様子

中村千賀、藤田淳一、米澤安子、野崎順子、柳沢衿哉（全22名）

4) 勉強会

令和6年2月17日（土）・18日（日）に、例会で採集した標本をもとに同定会を開催いたしました。17日は尾関雅章さんにご協力いただき長野県環境保全研究所飯綱庁舎、18日は市立大町山岳博物館といたしました。

1日目の参加者は5名で、標本の扱い方を中心にお話が進められました。標本庫の利用は、敷居が高いと思われる会員の方もいらっしゃるかもしれませんが、標本庫の利用の仕方は、各施設により異なるものの、基本的な部分は共通していることが多いことから、植物をさらに理解するには絶好の機会ですので、是非チャレンジしてみてください。

2日目の参加者は9名で、今年度開催された2回の例会で採集した標本を中心に同定を行いました。ヒメジョオン、ヤナギバヒメジョオン、ヘラバヒメジョオンこの3種の違いはいったい何なのか、博物館の標本を含めて比較しました。

2. 確認種

1) 第225回例会証拠標本

第225回例会の証拠標本を表1に示す。

標本番号のIURは井浦和子氏、TCCNは藤田の個人番号、NACは長野県環境保全研究所である。

2) 第225回例会興味深い植物

・クビキダイコンソウ *Geum japonicum* Thunb. f. *yokouchii* M.Mizush. (図1)

中部地方の日本海側を分布の中心とし、長野県内では、北信地方に生育が限定される。今のところ、水島正美が提唱したダイコンソウの品種をあてている。本種は、冬季に地上部が枯死し、早春の雪解け時に雪の下で真っ赤な新葉を展開し（葉が成熟すると鮮緑色になる）、花期は5～6月である。これらの点は、冬季にロゼット葉が残し、春に黄緑色の新葉を展開し（葉が成熟すると緑色から深緑色）、花期は7～8月であるダイコンソウとは本当に品種程度の違いなのか疑問が残る。現状、クビキダイコンソウのタイプ標本、原記載をあたれていないため、判断はできないが、今後精査したい。

・オニシバリ *Daphne pseudomezereum* A.Gray (図2)

Daphne で夏に落葉するものは、太平洋側ならオニシバリ *Daphne pseudomezereum* A.Gray、日本海側ならナニワズ *D. jezoensis* Maxim. に機械的にされている。北信地方＝日本海側と一括りにされているが、大北地域に意外と太平洋側の植物が多くみられ、飯山地方には日本海側の植物が多いという実態がある。このことから、今回確認したのは、ナニワズとして良い気がする。しかし、4月の下見の際に採集した標本にはすでに大きく生長した果実ができており、ナニワズにしては、花期が早すぎる印象を受ける。また、図鑑によく書かれる葉の側脈もナニワズとオニシバリが明確に異なるように思えない。かつてはナニワズとオニシバリが種内変異とされてきた経緯から、単純に区別できないと考えており、花期の早さから一応オニシバリとしておくが、花形態等、今後検証していきたい。

・ヒメジョオン *Erigeron annuus* (L.) Pers. (図3)

長野県内では、本当のヒメジョオンが極めて少ないという話をすると驚かれる。しかし事実である。長野県内のヒメジョオンは、ヒメジョオン *Erigeron annuus* (L.) Pers. とヘラバヒメジョオン *E. strigosus* Muhl. ex Willd. の交雑由来とされるヤナギバヒメジョオン *E. pseudoannuus* Makino に該当する。つぶさに形態的特徴をみていくと、ヒメジョオンからヘラバヒメジョオンまでグラデーションでつながり、根生葉から茎葉の幅が広く、地下部が貧弱な本来のヒメジョオンが少数派であることはあまり認識されていない。では、どこからどこまでをヒメジョオン、ヤナギバヒメジョオン、ヘラバヒメジョオンとするのかというのは線引きが難しいことや、ヤナギバヒメジョオンを厳密に見出し始めると、混乱を招くため、今回紹介したもの（図3）が本来のヒメジョオンであるという事実のみ心の片隅に留めて置く程度で良い気がする。

・ウラジロウコギ

Eleutherococcus hypoleucus (Makino) Nakai (図4)

ウラジロウコギ *Eleutherococcus hypoleucus* (Makino) Nakai は太平洋側の石灰岩地周辺に分布する落葉低木である。ということは、日本海側にはないと考えてしまいそうである。今回採られた標本は、花や実がないものの、葉の鋸歯が低く、小葉の先端部がつまんだように細くなり、かつ、葉裏が粉白色という特徴から、ウラジロウコギ以外には該当しない。飯山地方で本種が見つかったことは興味深

表 1 第 225 回例会標本リスト

No.	科名	種名	学名	標本番号
1	サトイモ	ヤマザトマムシグサ	<i>Arisaema galeiforme</i> Seriz.	TCCN23-0362 (NAC213681)
2		キタマムシグサ	<i>Arisaema peninsulae</i> Nakai subsp. boreale (Nakai) Serizawa	TCCN23-0107 (NAC213669)
3	カヤツリグサ	ショウジョウスゲ	<i>Carex blepharicarpa</i> Franch.	TCCN23-0103 (NAC213665)
4		ジュズスゲ	<i>Carex ischnostachya</i> Steud.	TCCN23-0360 (NAC213679)
5		ヒゴクサ	<i>Carex japonica</i> Thunb.	TCCN23-0361 (NAC213680)
6		イトアオスゲ	<i>Carex leucochlora</i> Bunge var. <i>filiculmis</i> (Franch. et Sav.) Kitag.	TCCN23-0372 (NAC213691)
7		コジュズスゲ	<i>Carex parviflora</i> Boott var. <i>macrogloma</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	TCCN23-0371 (NAC213690)
8		ニシノホンモンジスゲ	<i>Carex stenostachys</i> Franch. et Sav. var. <i>stenostachys</i>	TCCN23-0108 (NAC213670)
9	イネ	アオカモジグサ	<i>Elymus racemifer</i> (Steud.) Tzvelev	TCCN23-0355 (NAC213674)
10		アオコメガヤ	<i>Melica nutans</i> L. subsp. <i>grandiflora</i> (Koidz.) T. Koyama	TCCN23-0377 (NAC213696)
11		ミスジナガハグサ	<i>Poa pratensis</i> L. subsp. <i>irrigata</i> (Lindm.) H. Lindb.	TCCN23-0356 (NAC213675)
12		ナガボカニツリ*	<i>Trisetum bifidum</i> (Thunb.) Ohwi f. <i>contracta</i> Ohwi	TCCN23-0357 (NAC213676)
13	メギ	イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> C. Morren	TCCN23-0111 (NAC213673)
14	マメ	ユクノキ	<i>Cladrastis shikokiana</i> (Makino) Makino	IUR230611-01
15	バラ	アカツキザクラ	<i>Cerasus × compta</i> (Koidz.) H. Ohba	TCCN23-0363 (NAC213682)
16		クビキダイコンソウ*	<i>Geum japonicum</i> Thunb. f. <i>yokouchii</i> M. Mizush.	TCCN23-0373 (NAC213692)
17	クワ	コウゾ	<i>Broussonetia kazinoki</i> Siebold × <i>B. paprifera</i> (L.) L'Her. ex Vent.	TCCN23-0364 (NAC213683)
18	ニシキギ	ツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i> (Turcz.) Hand.-Mazz.	TCCN23-0368 (NAC213687)
19	カタバミ	タチカタバミ*	<i>Oxalis corniculata</i> L. form. <i>erecta</i> Makino	IUR230611-04
20		エゾタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i> L.	IUR230611-03, TCCN23-0370 (NAC213689)
21	トウダイグサ	ハクサンタイゲキ	<i>Euphorbia togakusensis</i> Hayata	TCCN23-0102 (NAC213664)
22	スミレ	オオタチツボスミレ	<i>Viola kusanoana</i> Makino	TCCN23-0106 (NAC213668)
23		山陰型コタチツボスミレ*	<i>Viola</i> sp.	TCCN23-0105 (NAC213667)
24	ムクロジ	アカイタヤ	<i>Acer pictum</i> Thunb. subsp. <i>mayrii</i> (Schwer.) H. Ohashi	TCCN23-0100 (NAC213662)
25		ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i> Siebold et Zucc.	TCCN23-0101 (NAC213663)
26	ミカン	サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i> (L.) DC.	TCCN23-0366 (NAC213685)
27		アサクラザンショウ*	<i>Zanthoxylum piperitum</i> (L.) DC. f. <i>inermis</i> (Makino) Makino	TCCN23-0367 (NAC213686)
28	ニガキ	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i> (Mill.) Swingle	IUR230611-08
29	ジンチョウゲ	オニシバリ*	<i>Daphne pseudomezereum</i> A. Gray	TCCN23-0109 (NAC213671)
30	アブラナ	オオバタネツケバナ	<i>Cardamine regeliana</i> Miq.	TCCN23-0104 (NAC213666)
31	ミズキ	ウリノキ	<i>Klugea platensis</i> (Siebold et Zucc.) Horn var. <i>tridentata</i> (Miq.) Ohi	TCCN23-0375 (NAC213694)
32		ヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> Buerger ex Hance subsp. <i>kousa</i>	IUR230611-05
33	アジサイ	ウツギ	<i>Deutzia crenata</i> Siebold et Zucc. var. <i>crenata</i>	TCCN23-0365 (NAC213684)
34	サクラソウ	ナガエコナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> Thunb.	TCCN23-0369 (NAC213688)
35	アカネ	クルマムグラ	<i>Galium japonicum</i> Makino	TCCN23-0374 (NAC213693)
36		クルマバスウ	<i>Galium odoratum</i> (L.) Scop.	TCCN23-0110 (NAC213672)
37		ヨツバムグラ	<i>Galium trachyspermum</i> A. Gray	IUR230611-11, TCCN23-0358 (NAC213677)
38	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i> L.	TCCN23-0359 (NAC213678)
39	モクセイ	ヤマトアオダモ	<i>Fraxinus longicuspis</i> Siebold et Zucc. var. <i>longicuspis</i>	IUR230611-07
40	シソ	トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i> (Benth.) Kuntze	IUR230611-12
41		ヤマタツナミソウ	<i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>transitoria</i> (Makino) H. Hara	TCCN23-0378 (NAC213697)
42	キク	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i> (L.) Pers.	IUR230611-10
43		ヤナギバヒメジョオン	<i>Erigeron pseudoannuus</i> Makino	IUR230611-09
44		ヤブレガサ	<i>Syneilesis palmata</i> (Thunb.) Maxim.	TCCN23-0376 (NAC213695)
45	レンブクソウ	ミヤマガマズミ	<i>Viburnum wrightii</i> Miq. var. <i>wrightii</i>	IUR230611-06
46	ウコギ	ウラジロウコギ	<i>Eleutherococcus hypoleucus</i> (Makino) Nakai	IUR230611-02
合計26科46種				48点

種名の後に*がついているものは、長野県植物目録 2017 の未掲載種である。

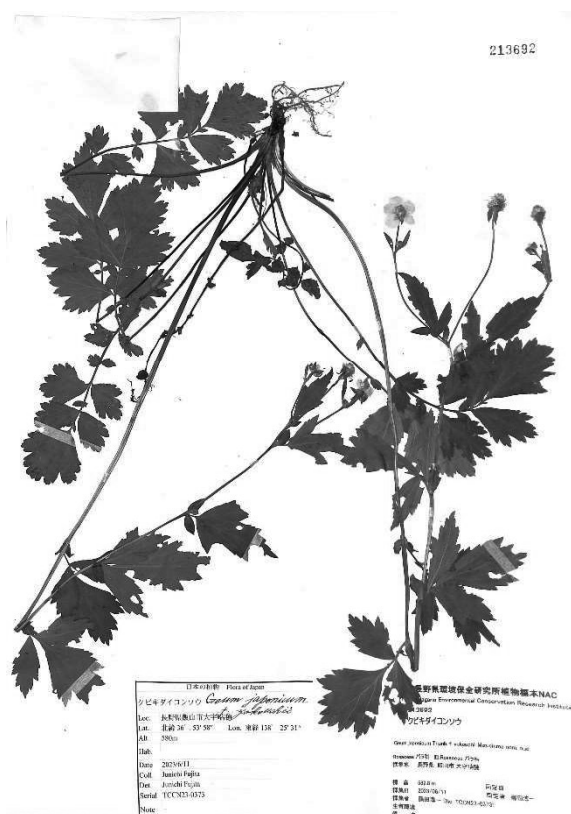


図1 クビキダイコンソウ



図2 オニシバリ



図3 ヒメジョオン



図4 ウラジロウコギ

い。長野県植物誌等の既存記録では、中部、南部のみに限られているが、これは、本当に中南信のみに分布しているのか、北信等の本来分布していないと考えられそうな場所の標本が他種として認識されてしまっているのか、検証が必要である。

3) 第 226 ~ 227 回例会証拠標本

第 226 ~ 227 回例会の証拠標本を表 2 に示す。

標本番号の IUR は井浦和子氏、NFJC は野崎順子氏、TCCN は藤田、米澤安子は米澤安子氏の個人番号、OAM は市立大町山岳博物館である。

4) 226 ~ 227 回例会興味深い植物

・キタメヒシバ

Digitaria ischaemum (Schreb.) Schreb. ex Muhl. (図 5)

キタメヒシバ *Digitaria ischaemum* (Schreb.) Schreb. ex Muhl. は、近年農耕地、市街地の踏み跡草地（カゼクサ - オオバコ群集が成立する立地）で急増している。これまでアキメヒシバ *Digitaria violascens* Link とみられていたものの大半は、キタメヒシバに該当し、アキメヒシバは県内では、稀産種であり、ほぼみられない。アキメヒシバからは、小穂が大きく、第一苞穎がわずかに存在し、小穂が付属する総が太く、葉が青みを帯びる点が異なる。キタメヒシバ自体は、国内では絶滅危惧種にされているものの、近年急増している本種は外来系統と考えられる。

・オオアキノエノコログサ（新称）*Setaria faberi* R.A.W.Herrm. × *S. pycnocomma* (Steud.) Henrard (図 6)

外来系統と考えられる大型のアキノエノコログサ *Setaria faberi* R.A.W.Herrm. とオオエノコロ *Setaria pycnocomma* (Steud.) Henrard の推定雑種である。花序枝が 2 次分枝する点は、外来系統のアキノエノコログサ、オオエノコロに共通するものの、花序の穂先が細くなる点はオオエノコロの特徴を残している。また、小穂の第二苞穎がアキノエノコログサよりも長く、護穎背面の裸出が狭い点は、アキノエノコログサの特徴を持ちながら、オオエノコロの特徴も引き継いでいると考えられる。本推定雑種は、ムギに転作された農耕地周辺に稀にみられるため、

便宜的に新称を与えておく。

・セイタカサワオトギリ *Hypericum pseudopetiolatum* R.Keller f. *elatum* (Y. Kimura) Y. Kimura (図 7)

サワオトギリ *Hypericum pseudopetiolatum* R.Keller に似るが、茎が直立して高さが 40cm を超え、葉が細く、花卉の黒点が有柄、萼の黒点には控えめな有柄となる点から、一度ナガサキオトギリ *H. kiusianum* Koidz. var. *kiusianum* とした。その後、様々な書籍を読み込んでいくと、書籍によりナガサキオトギリの同定のキーが一定しないことがわかってきた。また、1 つの書籍の中でサワオトギリの種内分類群の形態的特徴として挙げられている内容がナガサキオトギリと区別できない矛盾もあった。結果として、サワオトギリ近縁種の分類学的再検討がなされるのを待つ必要があるという落ちとなった。ではこのオトギリソウは何者か、と思い、ナガサキオトギリを含め多数の変異がサワオトギリの種内変異とされていた木村陽二郎時代 (Kimura 1938^{*1}) に立ち返り、最も特徴が一致するのが、品種セイタカサワオトギリ *H. pseudopetiolatum* R.Keller f. *elatum* (Y. Kimura) Y. Kimura であった。現時点でサワオトギリの品種という扱いをするが、今後、サワオトギリを細分化しようという提唱ではなく、現時点での一時的な措置であり、問題提起である。

*1: Kimura, Yojiro (1938) *Hypericum Japonicarum Descriptio I*. The Botanical Magazine. 52pp 188-195

・ミゾカクシ *Lobelia chinensis* Lour. (図 8)

長野県内では、中信地域では、ほとんどみられず、北信、南信に点々とみられる「良い水田」に生育する湿生植物である。大町まで行って、本種に出会えたというのが嬉しかったというものもあるが、何よりも標本にすると花卉の形が不明瞭になりやすい種ながら、参加者の NFJC-23-153 (OAM13896)、米澤安子 s.n. (OAM13931)、米澤安子 s.n. (OAM13932) の標本がいずれも花卉がしおれることなく、きれいな形で押されているという点に感銘を受けたため、ここで紹介する。このような生きた姿を想像できるきれいな標本を残すことも重要な事柄ではないだろうか。

表2 第226～227回例会標本リスト

No.	科名	和名	学名	第226回 (中網湖畔)	第227回 (木崎湖畔)
1	カヤツリグサ	ヒメクダ	<i>Cyperus brevifolius</i> (Rostk.) Rostk. var. <i>laetifolius</i> (Rostk.) T. Kawan.	IUR230909-03 (OAM13928)	TCCN23-0806 (OAM13920)
2		オニチャガヤツリ*	<i>Cyperus x babae</i> T. Koyama	TCCN23-0790 (OAM13945)	
3		ヒナガヤツリ	<i>Cyperus flaccidus</i> R. Br.		TCCN23-0815 (OAM13911)
4		ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> D. Don	TCCN23-0792 (OAM13943)	
5		オオヌマハリイ	<i>Eleocharis mamillata</i> H. Lindb.		IUR230910-06 (OAM13890) , TCCN23-0828 (OAM13898)
6		ヒメヒラテンツキ	<i>Fimbristylis autumnalis</i> (L.) Roem. et Schult.	TCCN23-0793 (OAM13935)	
7		ヒンジガヤツリ	<i>Lipocarpa microcephala</i> (R. Br.) Kunth		TCCN23-0818 (OAM13908)
8		カンガレイ	<i>Schoenoplectiella triangulata</i> (Rostk.) J. B. Jung et H. K. Choi	TCCN23-0787 (OAM13948)	
9		シカクイヌホタルイ*	<i>Schoenoplectiella x yashiroi</i> J. Oda et Nagam.		TCCN23-0826 (OAM13900)
10	イネ	シロトダシバ	<i>Arundinella hirta</i> (Thunb.) Tanaka var. <i>glauca</i> (Koidz.) Honda		TCCN23-0812 (OAM13914)
11		キタメヒシバ	<i>Digitaria ischaemum</i> (Schreb.) Schreb. ex Muhl.	IUR230909-02 (OAM13927) , TCCN23-0802 (OAM13936)	TCCN23-0813 (OAM13913)
12		タイヌビエ	<i>Echinochloa oryzicola</i> (Vasing.) Vasing.		TCCN23-0810 (OAM13916)
13		オオニワホコリ	<i>Eragrostis multispicula</i> Kitag.	IUR230909-04 (OAM13929) , TCCN23-0789 (OAM13946)	
14		コチデミザサ	<i>Paspalum thunbergii</i> Kunth ex Steud.	TCCN23-0800 (OAM13924)	
15		スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i> Kunth ex Steud.	TCCN23-0786 (OAM13949)	
16		ヨシ	<i>Phragmites australis</i> (Cav.) Trin. ex Steud.		TCCN23-0824 (OAM13902)
17		アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i> R. A. W. Herrm.	TCCN23-0784 (OAM13951) , TCCN23-0783 (OAM13952)	TCCN23-0808 (OAM13918)
18		オオアキノエノコ*	<i>Setaria faberi</i> R. A. W. Herrm. × <i>Setaria x pycnantha</i> (Steud.) Henard		TCCN23-0814 (OAM13912)
19		キンエノコロ	<i>Setaria pumila</i> (Poir.) Roem. et Schult.		TCCN23-0805 (OAM13921) TCCN23-0827 (OAM13899) , TCCN23-0819 (OAM13907)
20		カタバエノコ*	<i>Setaria viridis</i> f. <i>japonica</i> (Koidz.) Ohwi		TCCN23-0804 (OAM13922)
21	ケシ	ナガミノツルケマン	<i>Corydalis raddeana</i> Regel	米澤安子 s. n. (OAM13933) , 米澤安子 s. n. (OAM13934)	
22	マメ	マルバヤハズソウ	<i>Kummerowia stipulacea</i> (Maxim.) Makino		TCCN23-0825 (OAM13901)
23		オオバクサフジ	<i>Vicia pseudo-orobus</i> Fisch. et C. A. Mey.		TCCN23-0823 (OAM13903)
24	バラ	アイノコキンミズヒキ*	<i>Agrimonia x nippono-pilosa</i> Murata		TCCN23-0803 (OAM13923)
25	ウリ	スズメウリ	<i>Zehneria japonica</i> (Thunb.) H. Y. Liu		IUR230910-01 (OAM13895)
26	オトギリソウ	セイタカサワオトギリ*	<i>Hypericum pseudopetiolatum</i> R. Keller f. <i>elatum</i> (Y. Kimura) Y. Kimura		IUR230910-08 (OAM13888)
27		イワオトギリ	<i>Hypericum senanense</i> Maxim. subsp. <i>mutioides</i> (R. Keller) N. Robinson		TCCN23-0829 (OAM13897)
28	ミソハギ	ホソバヒメミソハギ	<i>Ammannia coccinea</i> Rottb.		IUR230910-07 (OAM13889)
29		キカシグサ	<i>Rotala indica</i> (Willd.) Koehne		IUR230910-10 (OAM13886)
30		ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i> Cham. et Schltdl.		IUR230910-09 (OAM13887)
31	アカバナ	ムツアカバナ	<i>Epilobium pterichlophum</i> Franch. et Sav. var. <i>curvato-pilosum</i> H. Hara	IUR230909-05 (OAM13930)	TCCN23-0822 (OAM13904)
32		メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i> L.		IUR230910-05 (OAM13891)
33		アキノタネツケバナ*	<i>Cardamine autumnalis</i> Koidz.	TCCN23-0791 (OAM13944)	
34	タデ	オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> (L.) Delarbre var. <i>lapathifolia</i>	TCCN23-0798 (OAM13941)	
35		サナエタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> (L.) Delarbre var. <i>incana</i> (Rostk.) H. Hara		TCCN23-0816 (OAM13910)
36		イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i> (Brujin) Kitag.		TCCN23-0811 (OAM13915)
37		タニソバ	<i>Persicaria nepalensis</i> (Meisn.) H. Gross	TCCN23-0795 (OAM13938)	
38		ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i> (Buch.-Ham. ex B. Don) H. Gross var. <i>posumbu</i>	TCCN23-0801 (OAM13925)	
39		ハイミチヤナギ	<i>Polygomon aviculare</i> L. subsp. <i>depressum</i> (Meisn.) Arang.		IUR230910-02 (OAM13894)
40	ヒルガオ	ヒルガオ	<i>Achyranthes bidentata</i> Blume var. <i>fauriei</i> (H. Léves.) Vaniot		TCCN23-0802 (OAM13900)
41	アゼナ	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta campestris</i> Yuncker		TCCN23-0809 (OAM13917)
42		アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> (L.) Pennell subsp. <i>major</i> (Pursh) Pennell		IUR230910-04 (OAM13892)
43		タケトアゼナ×アゼナ*	<i>Lindernia dubia</i> (L.) Pennell subsp. <i>major</i> × <i>Lindernia procumbens</i> (Rostk.) Philcox		IUR230910-03 (OAM13893) , TCCN23-0817 (OAM13909)
44		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i> (Krock.) Borbás	TCCN23-0794 (OAM13937)	
45		ヒメサルダヒコ*	<i>Lycopus ramosissimus</i> (Makino) Makino var. <i>ramosissimus</i>		TCCN23-0807 (OAM13919)
46	シソ	エゾシロネ	<i>Lycopus uniflorus</i> Michx.	TCCN23-0796 (OAM13939)	
47		ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i> (Buch.-Ham. ex Roxb.) Maxim.	TCCN23-0785 (OAM13950)	
48	キキョウ	ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i> Lour.	NFJC-23-153 (OAM13896) , 米澤安子 s. n. (OAM13931) , 米澤安子 s. n. (OAM13932)	
49	キク	タイアザミ	<i>Cirsium comosum</i> (Franch. et Sav.) Matsum.	IUR230909-01 (OAM13926) , TCCN23-0799 (OAM13942)	
50		フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i> Thunb.	TCCN23-0788 (OAM13947)	
51	セリ	ヒュウガセンキュウ	<i>Angelica minamitanii</i> T. Yamaz.	TCCN23-0797 (OAM13940)	
52		ドクゼリ	<i>Cicuta virosa</i> L.		TCCN23-0821 (OAM13905)
合計17科52種				30点	37点

種名の後に*がついているものは長野県植物目録2017未掲載種である。また、アキノエノコログサ、キンエノコロとしているものは、形態的な特徴から、外来系統と考えられるものを含む。

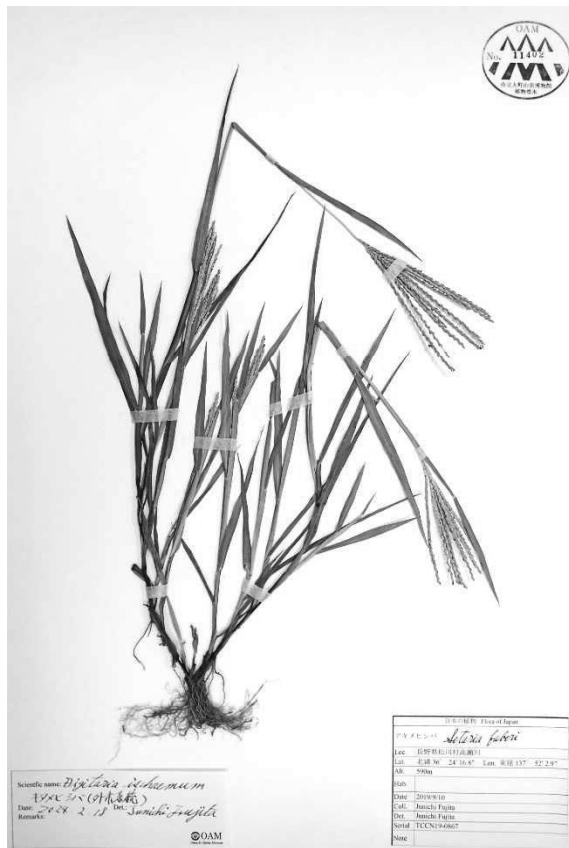


図5 キタメヒシバ

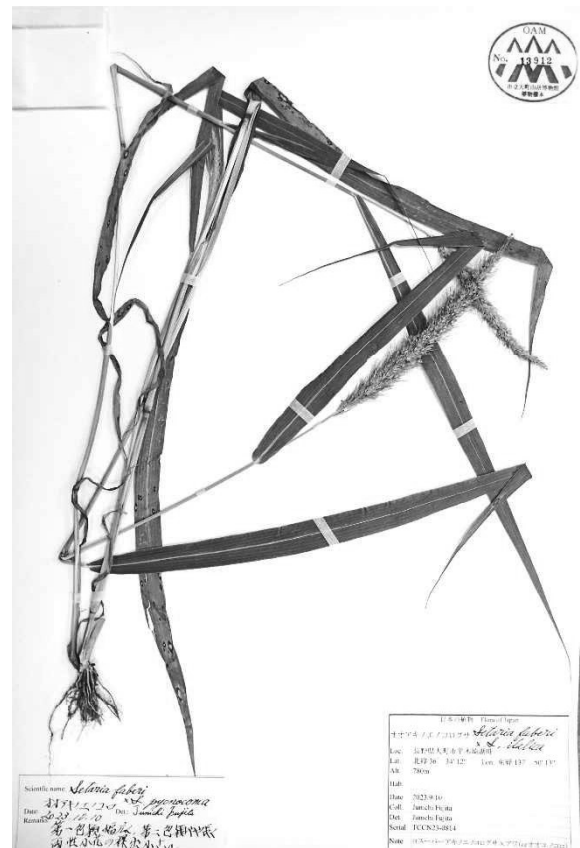


図6 オオアキノエノコログサ (新称)



図7 セイタカサワオトギリ

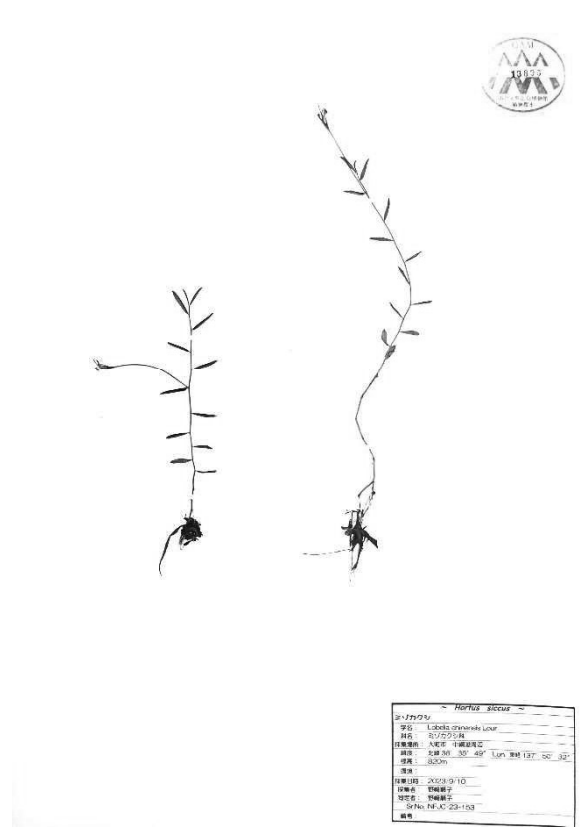


図8 ミゾカケシ

